

令和4年12月22日

教育委員会第12回定例会記録

石巻市教育委員会

教育委員会第12回定例会記録

◇開会年月日 令和4年12月22日（木曜日）

午後 1時30分開会

午後 2時35分閉会

◇開催の場所 本庁舎4階 庁議室

◇出席委員等 5名

教 育 長	宍 戸 健 悦 君	委 員 (教育長職務代理者)	阿 部 邦 英 君
委 員	梶 谷 美 智 子 君	委 員	杉 山 昌 行 君
委 員	大 和 千 恵 君		

◇欠席委員 なし

◇説明のため出席した者の職氏名

事 務 局 長	石 井 透 公 君	事 務 局 次 長	鈴 木 憲 君
事 務 局 次 長 (教育・文化 芸術振興担当)	今 野 順 子 君	参 事 兼 学 校 安 全 推 進 課 長	高 城 英 樹 君
教 育 総 務 課 長	今 野 良 司 君	学 校 教 育 課 長	福 田 光 一 君
学 校 管 理 課 長	大 山 健 一 君	生 涯 学 習 課 長	林 伸 晃 君
石 巻 中 央 公 民 館 長	阿 部 政 勝 君		

◇書 記

教 育 総 務 課 課 長 補 佐	戸 田 正 樹 君	教 育 総 務 課 教 育 総 務 係 課 長	平 塚 悦 子 君
教 育 総 務 課 主 事	河 井 夏 月 君		

◇付議事件

一般事務報告

・教育長報告

その他

午後 1時30分開会

○教育長（宍戸健悦君） それでは、ただいまから、令和4年第12回定例会を開会いたします。
本日の会議ですが、欠席委員はおりません。

会議録署名委員の指名

○教育長（宍戸健悦君） それでは、会議録署名委員の指名を行います。
本日の会議録署名委員は、杉山委員をお願いいたします。
よろしく申し上げます。

教育長報告

○教育長（宍戸健悦君） それでは、本日の案件に入ります。
本日の案件は、一般事務報告が1件、その他となっております。
それでは、一般事務報告に入ります。
初めに、わたくしから報告をいたします。
初めに、学校関係の新型コロナウイルス感染状況について報告をいたします。
市立の小・中・高校においては、11月中旬から増加し、12月に入っても、1日当たり30人前後の陽性者の報告があり、ほぼ毎日、1校から2校、学級閉鎖などの措置を行っております。現在のところ、学校全体に及ぶ感染の広がりが少ない状態でありますことから、学校における感染対策が有効に行われているものと考えております。
桜坂高校の京都、奈良方面の修学旅行が12月13日から16日まで行われました。残念ながら欠席者はあったものの、旅先で体調を崩す生徒はなく、予定通り回ることができたとのことでした。
今月の学校、幼稚園につきましては、小・中学校において、12月上旬に第2回目の標準学力調査が行われました。一人一人にとって、1回目より少しでも向上していることを目標にしており、結果を基に保護者面談など、家庭と協力しながら今後の学力向上を目指したいと考えております。
それぞれの学校では、2学期のまとめを行い、明日23日に終業式を行って、1月9日までの冬季休業に入ります。
次に、市議会第4回定例会は、12月1日から開催され、16日に閉会いたしました。内容は、

条例の改正や令和4年度一般会計等の補正予算などでありました。

私からは、環境教育委員会での質疑内容並びに一般質問の内容について報告をいたします。

初めに、環境教育委員会において付託された3議案について、審議、審査に入り、初めに、石巻市学びサポートセンター条例では、同センターの利用対象となる児童・生徒について質疑があり、利用対象者は、心理的要因等により不登校になった児童・生徒及びその保護者などである旨、答弁いたしました。また、同センターに一本化される相談窓口の役割について質疑があり、学校生活における様々な問題を広く相談窓口で受け付け、学校を始め関係機関につないで解決を図るものである旨、答弁いたしました。

次に、一般会計補正予算、債務負担行為補正中、遠距離通学児童輸送業務では、全国的に送迎バスに子供が取り残される事案が起きているが、本市の現状について質疑があり、幼稚園が2園、小学校が5校、中学校が2校でスクールバスを運行しており、乗務員が1名乗車することを定め、登校時と下校時に点呼を取っている旨、答弁いたしました。また、万が一、バスに取り残された場合の園児や児童に対する指導の実施について質疑があり、教育委員会からは特に指導を指示していないが、国で安全装置の設置を義務付ける動きも出ていることから、その動向を注視するとともに、学校等での指導を徹底させていきたい旨、答弁しました。

次に、債務負担行為補正中、旧観慶丸商店管理運營業務では、指定管理における修繕の考え方について質疑があり、軽微な修繕は指定管理者に、大規模修繕は市で実施することとしており、指定管理料の中には超過修繕費50万円を含めているが、年度内に修繕がない場合は市に返還される旨、答弁いたしました。また、旧観慶丸商店の入館者数について質疑があり、令和4年度の入館者数は7,276名、旧観慶丸商店2階の展示スペース見学者が4,132名である旨、答弁いたしました。

次に、学校給食費では、賄材料費高騰対策事業費（新型コロナウイルス対策分）の増額理由について質疑があり、令和4年4月の消費者物価指数が前年同月より4%上昇したことから、この差異を考慮し、必要な経費を措置したものである旨、答弁いたしました。また、賄材料費の位置付けを明確にすべきとの意見があり、学校給食費法では、給食提供に必要な食材は保護者負担となっているものの、安全な食材と地元の食材を使った栄養価の高い給食が望まれることから、保護者負担という原則はあるものの、市としてもできる限りの努力を続けていきたい旨の答弁をいたしました。

環境教育委員会では、その後、全ての原案を可決いたしました。さらに、16日の本会議で、条例、補正予算等が可決されました。

次に、12日から行われました一般質問は、27名から通告があり、そのうち教育関係は主に10名からありました。

主な内容を申し上げます。

タブレットドリルの活用状況について。

学習塾の経費など、困窮家庭だけでなく、全児童・生徒が受けられる支援について。

石巻市総合運動公園、マルホンまきあーとテラスの運営の現状について。

オーガニック給食の導入について。

通学バスと地域交通体系の組入れについて。

渡波地区の祝田地区の文化財等について。

医療的ケアが必要な子供の支援について。

学校給食無償化について。

通学路の安全対策について。

道徳的实践力を育成する考え議論する道徳の授業と道徳教育について。

子供の体力、運動能力について。

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」活用推進事業について。

以上が主な一般質問の内容でありました。

これで私からの報告を終わります。

何か御質問ございませんか。

(発言する者なし)

○教育長（**宍戸健悦君**） よろしいですか。

(「はい」との声あり)

その他

○教育長（**宍戸健悦君**） では、なければ、その他に入ります。

はじめに、委員の皆さんから何かございませんか。

梶谷委員。

○委員（**梶谷美智子君**） ただいまの教育長からのお話の中に、明日、終業式で冬休みということで、まずは無事に2学期の終えられるということを楽しんでいます。

冬休み前なので、各校でも、学力面もそうですけれども、やはり生活習慣ということで、学校でいろいろ指導をしていただいていることと思います。

以前、基本的な生活習慣のことについての報道を見たときに、タブレットを使って、中学生だったと思いますけれども、自分の生活習慣について自己管理していくような取組をしているということを見たことがあります。小学校低学年のうち、保護者の方に、基本的な生活習慣が身につくように頑張っていたと聞いていますけれども、小学校高学年、そして中学校となった場合は、自分で自己管理していけるような力を付けていかなければならないと思います。

その上で、それに当たって、1人1台のタブレットもありますし、冬休み中どのようにタブレットを使うかというのは、学校によって違うかとは思いますが、冬休みだけでなく、3学期始まってからも、子供が自立的に自分を律する、自立的に生活習慣をきちんと自分で管理していけるように、タブレットなども活用するというのも一つかなと思います。それが1点。

それから、タブレットドリルのことが議会の方でも質問が出たというお話でしたけれども、これについても、やはり冬休みとかそれ以降も、ドリルをどのように活用していくのかというところを教えていただけたらと思い質問させていただきました。

○教育長（宍戸健悦君） この件について。

では、学校教育課長。

○学校教育課長（福田光一君） ありがとうございます。

まず、その基本的な生活習慣を身に付けるということで、長期の休み、この冬休みに入るに当たり、各学校で紙に予定を入れるという作業をしております。冬休み中に何をするかを、学校では時間を追って1日のスケジュールを立てていますが、私がいた学校では、タブレットでそのスケジュールを入れて、いわゆるスタディ・ログと言うのですが、今日、何の勉強をしたということをそこに書き込んで、その勉強で分かったこと、分からなかったことを分析していくということを取り組ませていました。それを、ふだんの日常の授業がある日もそれを継続していくと、自分の得意なところ、今の弱点がはっきり分かってくるので、自分でそこを克服しようという力が身につくという取組をしています。

それを先生が評価して、自分の弱点を克服して、こうなりたいという目標に向かって成果を出せば、それがいわゆる主体的に学習に取り組む態度という評価に結びつくのだということで、昨年度からそれを具体的にやっているのですが、そのやり方がまだ確立されていなくて、いまだに紙ベースでそれをやっている学校、そこに先生がコメントを付けるというようなところをやっているところもあるので、提案いただいたタブレットにできるだけ移行したいと思っています。実践例を積み重ねて、それを水平展開して、別の学校でもその取組ができるようにしたいという段階です。

タブレットドリルについては、タブレットドリル祭りでは、時間と回数だけにこだわりましたので、今回はその内容を、効果をどれほど上げるかというところに焦点を当てて、各学校で取り組んでほしいということを伝えています。

先週、2回目の標準学力調査を終えましたので、結果は1月の中頃にしか出ないのですけれども、そのテストを終えて、2学期で自分がちょっと弱点だなと感じるところをタブレットドリルを用いて復習をしたり、あるいは、できる子はさらに先に進むなど、宿題の出し方も、ここからここまでやりなさいではなくて、先ほどのスタディ・ログに基づいて、自分はここが不得意だから、単元のここのドリルをやればよいというようなところまでいければいいかと思っています。

今年の段階では、標準学力調査のできなかったところを中心に、タブレットドリルで冬休みにもう一回やってみなさいというような声かけをしていきたいと思っています。

以上です。

○委員（梶谷美智子君） ありがとうございます。

前にもお話ししたと思うのですが、タブレットドリルの活用もすごくいいと思います。

大事なものは、やはり子供の実態を教師がどれだけ把握しているかということだと思っております。教師から見て分からない子、できない子の把握ではなくて、やっぱりできないでいる子、分からないでいる子、ちょっとうまく表現できないですけれども、そういう子供をどうやって教師がそれを見取って、そして、その子に応じた指導をしていくかということが大事だと思うのです。

分かりました。ありがとうございます。

○教育長（宍戸健悦君） まさにタブレットを導入することによって、一つの理想的な形なのだけれども、学校で授業をすると、ある一定のレベルを想定して授業をします。それよりも中には、それも理解できないドロップアウトするような人、それからフローアウトと言って、そんな問題はもうとっくに分かっていると言って、それよりも上を求める子供、その両方が結局、その授業に集中できない子供がいるわけですね。タブレットだといろんな問題があったり、いろんな解き方があったりするので、そのそれぞれの子供たちが、自分に合ったような形で授業を進めることができるという、そういう重層的な対応がタブレットを使うと可能になるというのが一つの理想的な形で、それを目指している部分はあると思います。

それから、最初のお話だと、自立的に活動できる子供を育てたいとなりますと、目標に向かって進むためにはどうしたらいいかって自分自身をコントロールしていくのが自立的な生活の

習慣だと思し、学習習慣も同じように、ある一定の目標を持ったなら、そこに向かうためには自分はどんな努力をしたらいいのかというのも、自分自身を客観的に全体が見られるという、教育用語でメタ認知と言う、自分自身を客観的に見る見方、それによって学習に向かおうとする力、そういうのをぜひ育てたいという、昔の関心、意欲、態度ではなくて、新しく学習に向かう、学びに向かう力という表現に、新しく今、変わっているのですけれども、その辺が、自分自身の生活も学習も自分で自分を客観的に見る力を育てていくという意味でも、今お話あった自立的な自己管理というか、その辺は非常に重要なところだなと、私も今お話を聞いていて思ったところです。

これについて、ほかの委員方、何かございませんか。

大和委員。

○委員（大和千恵君） 前日もタブレットドリルの話を聞かせていただいて、生活習慣の管理もできるというお話で、やはり休み中の例えば起きた時間、寝た時間とか、あと歯磨きを何回したとか、それぞれ別々の紙になっていて、それに記入するという作業をしているのですけれども、それが1つのタブレットで管理ができて、例えば冬休み中の目標を子供が立てて、この時間に起きて、寝て、1日1回は外で遊ぶとか、いろいろ自分の中で目標を決めて、それを達成したときに目に見える形で、ゴールみたいなのが、その中で本人に分かりやすく達成感が与えられるとすごくいいのかなという、聞いて思いました。

前回お話しした、iPadを使用して文字を書くのは、子供たちが、何回書いてもうまく書けない、反応しないとか、なかなか大変そうでしたので、タブレットドリルだと、書くとか、筆算をたくさん書いてというよりは、センター入試みたいに問題を選んで答えをやっていくとかというドリルだと、たくさん問題が解けたり、子供たちも使いやすかったりするみたいなので、子供たちが楽しみながら、気づいたらたくさん勉強していたみたいなのドリルができるというのかなというのを少し感じました。

あとは、前回、子供がスクリーンショットで前の問題を撮って次に見たりとかというふうに、子供たちすごく使い方を覚えていて、プログラミングも、動物を動かしたりするプログラミングとかも、すぐ覚えてやっていたりするので、すごく吸収する年代だと思うので、うまく使っていけたらいいのかなというのと、紙と違って机に立てて使っていたりするのですけれども、台所とかにいて見ていると、ちゃんとドリルを解いているのか、いたずらしているのかというのが、保護者側から見ても分かりづらいところとかもあるので、その辺の使い方とか、その辺の課題とかをきちんと解決しながら、うまく活用できたらいいかなと感じています。

○教育長（宍戸健悦君）

学校教育課長。

○学校教育課長（福田光一君） 今、委員がおっしゃった、学校によってICTの使い方に差があるというのが非常に大きな悩みで、得意な先生がいれば、効率よくいい方法がどんどん推進していくのですけれども、中になかなかそれを使いこなせない先生方がいるというのも現実で、研修会は開いているのですけれども、どうやったら便利に使えるのかという発想がないと効果的な使い方できないと思うのです。何でもかんでもICTとなって、本当は実際に体験した方がいいのに、例えば理科の実験を全部テレビで映して見せるとか、そういう使い方をしてしまうこともあるので、先ほども言った実践を分析して、それを各学校に、こういう使い方がありますよというのをこれから広げていく必要があるかなと思います。

先ほどおっしゃっていた家での生活、スイッチを押すだけで、もうクラスルームというので掌握できるはずなのです。何時に起きて、今日は体温が何度でというのを子供たち、担任が全部集約できるようなアプリがあるので、それを使えば、それをお母さん、お父さんに見てもらって、お父さん、お母さんがサインの代わりにスイッチを押せば、保護者も確認しましたよというのでできるはずなので、そういう工夫を、有効な使い方ですと発信していくのが教育委員会の仕事かなと思っていました。

さらにいいアイデアとかあれば、教えていただければと思います。ありがとうございます。

○委員（大和千恵君） ありがとうございます。

○教育長（宍戸健悦君） 昔の感覚だと、何かソフトがあって、それを入れていって、そのとおりやるというイメージだけでも、今のあのタブレットというのは、いろんな使い方ができるものなのですよ。もう既にそういうのはアプリで入っているし、機能としては十分あるのだけれども、紙よりもこれを使うと、こんなにいろんなことができるよという効率的な効果的な使い方というのを、もっともっと先生方にも便利に使ってもらえるようにしていかなければならないと思うし、また子供たちも同じように、選ぶ選択肢の問題だけでなく書き込む、文章を書くとか、それも手書き入力ができるはずなのね。だから、その手書き入力にも慣れていってもらわないと、これからあれを使いこなす人として育てていってほしいので、あれを縦横無尽に使えるようにしていかなければならないと、そういう部分もあると思うのです。

まだ、全面的には、来年の全国学力・学習状況調査はタブレット実施はしないのですけれども、再来年度あたりは全部あれで学力テストをします。CBTというのですけれども、タブレットで問題を解く、問題を回答するというのに慣れていかないと、これからは皆それで入力し

て回答すると。だから、コンピューター操作で手間取っていると、本来は考える時間が必要なのに、その操作で戸惑ってしまうとなかなか力が発揮できないということもあるので、それに習熟させることも喫緊の課題として今あるのです。

なので、もう時代はどんどんタブレットありきで世の中が進んでいっているという部分もあるので、いいところをうまく使いながら習熟させながら、だから指導者の方は、大きく発想を変えなくてはいけないので大変な部分もあるかなと思うのですけれども、使いこなす力を今、求められていますので、周りの大人の方が大変な状況にあるかなと思っております。

ほかに何かございますか。

○委員（阿部邦英君） 関連して、すみません。

○教育長（宍戸健悦君） 阿部委員。

○委員（阿部邦英君） 私は、同居している孫の小学校6年生の女子なのですけれども、今、大和委員からお話あったような、うちの中では活動していますが、車で迎えに行っても大体20分ぐらいの帰り道は、プリントの宿題が出て、帰ってくるとすぐタブレット持ってきて、毎日のようにやっていますから。やはり特に我々に聞くこともなく、分かるのかと言うと「はい、分かります」とか言ってやっております。

でも、楽しんでやっていることは確かですので、今、学校教育課長がおっしゃったように、学校間での格差、これがどうしても生じてくると思いますけれども、その解消に向けて解決策をやっていただければありがたいなと思います。

私は、保護司をやっているのですが、あと定年まで1年か2年あるのですけれども、保護司の世界も、そういうの入ってきているのです。というのは、ICT化ということで、拠点となるサポートセンターがあるのですが、そこに機械を備え付けて、しょっちゅう講習会や会議も、仙台保護観察所と結んで、やったりするのですけれども、私なんかよく分からないのですが、分からないは言っていられないので、誰か一緒に二、三人引き連れて、お願いして付き添ってもらって、そして教えられながらやっているということで、子供の社会からお年寄りの社会まで、そういったICT化が進んでいると感じますので、やはりこれは勉強しないと駄目なので、グループ制を取って勉強会をすとか、いろんな方策を考えてほしいなと思います。来年も大変でしょうけれども、ひとつよろしく願いいたします。

以上です。

○教育長（宍戸健悦君） ありがとうございます。

杉山委員、何かコメントありますか。

○委員（杉山昌行君） いや、これについては無いです。

○教育長（宍戸健悦君） そうですか。

○委員（杉山昌行君） 別なこといいですか。

○教育長（宍戸健悦君） はい、どうぞ。

○委員（杉山昌行君） こっちの資料にコミュニティ・スクールのことが触れてあったので、お聞きしたいのですが、石巻市でも多分コミュニティ・スクールの進め方に、学校によっては全く進んでいないところもあるように聞いたのですが、何か理由があるのかなと思って、一斉に進めているわけではないのかなという、お聞きしたかったのですが。

○教育長（宍戸健悦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（福田光一君） 年度によって、段階的に進めており、今年度は8校導入しています。来年度に向けて準備校があつて、令和6年度で全学校がコミュニティ・スクール化になるという、段階的にコミュニティ・スクールに移行しているところです。

○委員（杉山昌行君） これは中学校ですか。

○学校教育課長（福田光一君） 中学校も小学校もです。

○委員（杉山昌行君） どっちもですか。

○学校教育課長（福田光一君） あるいは小学校と中学校一緒、釜小、青葉中は一緒にコミュニティ・スクールを運営しています。

○委員（杉山昌行君） 分かりました。何か、そっちからもお誘いを受けていたので、どうなっているのかなと思いました。分かりました。

○教育長（宍戸健悦君） コミュニティ・スクールは小・中・高校、桜坂もコミュニティ・スクールになるということで、やっと最後は十数校、来年度になって、全部がコミュニティ・スクールになるということなので、順次ということで、今年から来年が、非常に多くの学校が導入していくという段階です。だから、進んでいるところは、もうそれを中心にして活発にいろんな活動をしている学校も、もう既にありますけれども、まだこれからというところもまだあるというところの今、現状でございます。

○委員（杉山昌行君） 分かりました。

○教育長（宍戸健悦君） あと、私の方から、先ほど梶谷委員と話をされていて、幼児教育の充実というか、体力、学力向上も、それから体力向上も、全てにおいて突き詰まるところが、幼児期からの子供たちを育てるという意味で、基本的な生活習慣もそうですし、社会的な習慣もそうですし、そういうのが土台になって、学力、体力に皆関わってくるということで、やはり

幼児教育、幼児期からの教育の重要さというのがクローズアップというか、その辺に焦点化したいと思っているのですが、どのようにそれを切り込んでいくか、保護者の方々との理解も得ながら進めていくということになると思うのですけれども、その辺、皆さん何か御意見いただければと思うのですけれども。

杉山委員。

○委員（杉山昌行君） 私は、稲井なののですけれども、稲井幼稚園ずっと娘4人卒園させましたが、もう年々減ってきて、もう今では残りの園児が二、三人ぐらいになっているのです。最初の頃は、年中、年長2クラスずつ満員でいたくらいだったのですが、やっぱり午前中で終わるということで、お母さんたちどうしても延長保育を望んでいたのですが、延長保育はできませんと言われて、そうすると私立とか保育園に入れざるを得ないということだったのです。それでどんどん減ってきたのですが。

今度こども園になれば、そういうところは解消されるのでしょうか、何というのですか、柔軟にというか、保護者の方々の希望に沿ったような形で受け入れるような体制をつくっていかないと、預ける方も長く見てくれるところに預けたくるので、そうすると私立が駄目だということではないのですが、どうしても教育的に公共の方の幼稚園で考えていることが私立でもちゃんとやられているかどうかは、なかなか管理できないと思うのです。だから、お金も時間もかけるというような姿勢を、保護者のお父さん、お母さんたちに見せないちょっと駄目かなと思います。思っずずっと子供育ててきたのですが。

私は、地元の幼稚園に入れたくて、入れて、もっと周りのお父さんやお母さんたちにも声をかけて、地元でせっかくあるのだからとずっと、お友達つくるのにもいいしと言って誘ってきたのだけれども、駄目だったのです。もはやなくなる寸前みたいな状況になってしまったので、非常に残念なのですが。

○教育長（宍戸健悦君） 保育時間の関係で、やはり社会のニーズというか、保護者の方々が社会に出て働くようになると、子供を預ける時間も長くなるということで、幼稚園ではなかなか対応し切れなくなってということで、市としては、それで幼保一体化ということでのこども園化を、今、進めていたところなののですけれども。ただ、その分、公立から私立へというか、そういうのも進めていることは確かです。

梶谷委員。

○委員（梶谷美智子君） 私も幼稚園に勤めていましたので、杉山委員と同じようなことを考えておりました。

幼児教育というと、小学校に入るのは幼稚園からの子、公立、私立ありますね。そして、保育所から就学するという子は大変多いですよ。そして、やはり幼稚園は幼稚園の教育課程があって、教育計画があって、それに基づいて、いわゆる教育をするわけなのですけれども、保育所は保育所でまた管轄が厚労省で違いますし、保育計画はあると思いますし、指導要領で小学校就学までに育てたい力という、10の力でしたか、そういったものも同じものが設定されているわけなのですけれども。でも、そこは幼稚園の教育と、いわゆる子供を養育する保育所では違いが、役割の違いもあるから、だから一口に幼児教育と言っても、簡単ではないなとは思いますが。

今年度から、学力向上委員会でしたか、正式名称ちょっと忘れましたが、そこに幼稚園もですけれども、保育所の方の管轄になる子ども保育課の代表の方も出られるということで、これは前にも言いましたけれども、一つ大きな一歩だと思うのですけれども、そこで幼稚園の教育と保育所での養育について、お互いに理解することも必要だし、あと、就学に向けて、共通してこれはやっていきたいと思いますというところは、今まで何回も言っていますけれども、アプローチプログラムを中心としたものというか、そういったことに取り組んでいくということが大事だと思います。

そうしないと、ばらばらにみんな子供たちが小学校に入って、さあ、一斉に何かやりますよというときに、どうしても、そういったものになじめない子だってもちろんいますし、そういったところを考えて、就学前に、一緒にやっていきましょうよ、こういうことはということ、一つ形としてまず見えるものが私は必要だと思うのです。それをどのように、あと個々の担任が、子供たちにそれを身に付けさせていくかということだと思います。

あと、幼保の連携の事業を市教委でやっていたと思うのですけれども、そういったところも一緒にお話を聞いたりというようなもののように思いますが、もっと何かイベント的に、幼稚園のことを私はやっていました。住吉幼稚園と水押保育所の子供たちの交流とか、そういったものを予算いただいてやっていましたけれども、イベント的にそういうふうにし集まって遊ぶとかではなくて、それぞれの担任、お互いに幼稚園、そして保育所、個々どんなことやっているか知り合うということも大事だし、子供たちをどのように育てていったらいいかということと一緒に話をするような、そういった場を持てたらいいなと思いました。

幼保小連携もそうですけれども、幼稚園と保育所がどのようにして子育てをしていくかというところで、何か一緒にお話ができるというか、そういったところがあるといいなと思っています。プラス、アプローチカリキュラム案をしっかりとやっていきたいと思います。

かなと考えています。

○教育長（宍戸健悦君） ありがとうございます。

いいですか、ほかに。

阿部委員。

○委員（阿部邦英君） よく考えれば簡単なことなのですけれども、これがなかなか実行できないのが難しいということだと私、思うのです。

今は、梶谷委員からもお話あったように、幼稚園ではきちんとした教育要領があって、そのとおりにやっていますので、子供たちの教育は大丈夫かなと考えますが、幼児教育は親が関わってきますので、親が何かをしないと、子供たちの成長がちょっとよくないなと感じているのです。

親のための、いわゆるいろんな講座もありますけれども、そういうのを企画しても、なかなか受ける方が決まっていたり、来てほしい方が来なかったりというのがよくあるといますか、親が本気になって、うちの子供をこうしたいと考えて、いろいろな研修会に参加して、いろいろなことを実践すれば簡単な話なのですけれども、そこがなかなか難しいということなのです。

私が、牡鹿町の教育委員会に派遣社会教育主事として3年間行きましたけれども、当時、牡鹿町には保育所が2つしかなくて、当時の教育長は、何としても幼稚園を、幼稚園的な教育をやりたい。「阿部君、少し幼稚園の教育要領を、教育課程をつくってくれないか」って。私は、そこで初めて幼稚園のことについて勉強して理解したのですけれども、いわゆる当時の谷川地区とか寄磯地区、この辺が保育所にも交通の便が悪くて通われないということで、この2地区に幼稚園的な施設をつくりたいということで、幼児学級と名前を付けて、寄磯地区と谷川地区に開設したのです。これが結構評判がよくて、保護者たちも一生懸命になって、うちの方にも幼稚園的なものができるのだということで、一生懸命講習会も参加したりして、町と一体になって取り組んでいったわけなのです。

いわゆる幼児期における発達課題というのがありますけれども、幼児期はこういったことを身に付けさせなくちゃいけないのだという、ハヴィガーストという教育思想家ですね、この人の言葉なのですけれども、そのとおりにやればいいのだけれども、それがなかなかできないというのが、今の現状なのではないかなと思います。こういった課題を解決するのはどこかというところ、結局、家庭とか幼稚園とか保育所、これが一体となってやらないとなかなか進まないという。という訳で、理論は簡単なのですけれども、やり方をどうするかといったところが、今、非常に問題なのかなと思っています。

以上です。

○教育長（宍戸健悦君） ありがとうございます。

○委員（阿部邦英君） 解決策といっても、なかなか難しいです。親御さんと、そういう方々がいろんなところに参加して体験してもらわないと、どうしようもない。

○教育長（宍戸健悦君） 大和委員、何かありますか。

○委員（大和千恵君） 私も河北の幼稚園に子供3人お世話になって、今も一番下、通っているのですけれども、本当に素晴らしい教育というか、本当に体力面でも生活面でも、あとはいろんな教育的なことも、本当に熱心に教育していただいて、昨日なんか八幡山に登りに行った、結構山の上まで子供たちみんなで登ったりとかして、あとは園庭で野菜をみんなで育てて、それを今度、道の駅でみんなで販売をして、お客さんに売るところまで、その金銭教育というところも、今年度は何か力を入れてやってくださっていて、本当、子供たちも楽しく生き生きとした姿を見ていて、本当に通わせてよかったなという気持ちであります。

河北地区の保護者の方のお話を聞くと、市立の幼稚園は2年なので、今は子供も少ないこともあって、早いうちから集団に入れてあげたいということで、三、四歳児から3年保育のある私立の幼稚園に入れてしまう御家庭も多いという話で、送り迎えも大変ではあるということではあったので、今、河北幼稚園は、延長保育を取り入れてやっていただいて、結構利用されている方いますので、ほかの市町村とかでは、三、四歳児からやっているところが多いと思うので、そういう3歳児からですね。3、4、5で3年間できるといいのかなというのもあります。

あと、うちでは、幼稚園に行く前は保育所にも、通わせていたことがあるのですけれども、今は保育所の方でも、絵を描いたり字を書いたりとかする時間とか、あとはお遊戯会とか運動会とかにも出て園児を指導したりとか、幼稚園と変わらないような内容で進めているところもあると思うので、大きな違いというと、時間が長いのと、お昼寝が保育所にはあって、今、就学前はお昼寝なくしていったりとかしているのですかね。保育所から小学校に行ったお子さんとかだと、お昼寝の時間あたりに眠くなるお子さんもいらっしゃるというのと、うちも保育所通っているときは、夜寝る時間がなかなか遅くなってしまいう問題というか、しっかりお昼寝してくるので、お兄ちゃんとかよりも寝られない、幼稚園に入るとお昼寝しないで活動してきてくるので、もう早く寝るといふ、生活リズムが幼稚園に入ってから整ったというのもあるので、お昼寝も低年齢だと必要だと思うのですけれども、年が上がっていったときに、体力もついてくるので、昼寝の時間をしっかり取ってしまうと、なかなか夜、子供たちが寝られないということで、夜寝るのが遅くなっているという、様子が保育所の子どもたちだと見られて

いたので、保育所のそこは管轄だとは思いますが、小学校に移行する前にその辺を考えていただけるといいのかなと思います。

○教育長（宍戸健悦君） いずれ小学校に皆上がってくるので、一つの小学校に上がるということを目指して、幼稚園も保育所もその情報共有をしながら、今はアプローチカリキュラム、今後は架け橋プログラムという、新しいこども家庭庁でも方向性も出しているようなので、その辺、幼保、それからこども園、そして小学校との連携というのが一番大きい、大切だと思います。お互いを知り合うということは必要だなと話聞いていて思ったし、保護者の存在というか、子供たちの周りにいる大人が、この子供をどのように育てていくかということのアンテナも強くしなくてはいけないということですね。

○委員（杉山昌行君） いいですか。

○教育長（宍戸健悦君） 杉山委員。

○委員（杉山昌行君） そのことなのですが、私は保育園分らないので、幼稚園のことしか分らないのですが、学校に上がってきた保護者の方々見ていると、幼稚園もPTA活動やっているのです。役員会も開いて、それから行事も保護者がお手伝いする、運動会も夏祭りも、いろいろ保護者が関わりながら行事やっているのですけれども、保育園の保護者の方のお話聞くと、先生が準備したのにただ行って、何か保護者が協力する行事という感覚はほとんどないよということを聞いたことがあるのです。

もちろん共働きで、保育所に通わせている親御さんたち共働きなので、そんな余裕はないのかもしれないのだけれども、そういう意味では、教育に関わる意識というかがちょっと違うのかなという。だから、小学校のPTAをやるに当たって声がけすると、保育園でPTAやってきた方々は割とすんなり入ってくれるのだけれども、仕事とかの関係もあるので一概には言えないのですけれども、親が関わるという意識の違いって温度差みたいなのはあるのかなと。

ここでさっきの話ではないですけれども、今後コミュニティ・スクールができれば、保育園も幼稚園も、もう小・中ではなくて幼稚園の段階から、就学前の段階からコミュニティ・スクールに取り込んで、地域に住んでいる大人としての意識をみんなで共有しましょうというような取組をしていかないと駄目なのは、保育園と幼稚園は別という、もう学校に上がってくるまで関わり合いがないという感じでは駄目なような気がするのです。どのような手だてがあるか、分からないのですけれども、そういう意識を共有するという意味では、何か考える必要があると思います。

○教育長（宍戸健悦君） ありがとうございます。

保育所は働いている方々のお子さんを預かっているのです、働いている親にいろいろなこととしてくださいというのはなかなか難しい部分もあるかもしれないですけども、でもそのところが、親の理解を図るためには、親に協力してもらおうような、そういう体制は、親として自分の子どもをどのようにしたらいいのかというのが分かってくるということは確かにあると思いますので、保育所でも、もうどんどん保護者にいろいろなことを頼むというのも一つだなと、今お話聞いていて思いました。広範囲から子供が集まっているこども園とか、私立の保育所だと、なかなか難しい部分もあるかもしれませんが、親の意識を高めるために、いろんな保育所の活動に対しても、親が協力するような体制というのはあっていいですよ。

分かりました。ありがとうございます。いろいろ御意見いただいて、今後、教育委員会として、幼児教育に対してどのように働きかけができるかいろいろな御意見をいただきました。

今年度分については、年明けに教育委員会が主催する、幼稚園と保育所とそこの先生方、あと小学校でしたか、集まっていたいろいろな研修会をとというのは、今度、私立にも案内を出して、ぜひ来ていただくようにということで、今、企画しているところです。ぜひ、そういう連携図れるような研修会、今後もしていきたいなと思います。

ありがとうございました。

それでは、各課長方から何かございませんか。

中央公民館長。

○石巻中央公民館長（阿部政勝君） 石巻中央公民館の阿部です。

資料は、文部科学省という表題で、左側にあった6枚つづりの資料になります。

このたび当館、石巻中央公民館が文部科学省より、第75回優良公民館として表彰されることが決定いたしましたので御報告いたします。

この表彰は、文部科学省が毎年、公民館活動の充実、振興に資するため、特に事業内容や方法等に工夫をこらし、地域住民の学習活動や地域づくり活動に大きく貢献していると認められるものを優良公民館として表彰しております。

今年度は、全国に約1万4,000の公民館などの中から、72館が優良公民館として表彰されることとなり、宮城県内では当館が唯一の表彰を受けることとなりました。

当館は、地域住民の皆様や各種団体の皆様の多大なる御協力をいただきながら、東日本大震災後の新たなコミュニティー構築の一助となる活動や家庭教育支援事業などを通して、人づくりや地域づくりに寄与したことが評価されました。

改めて、公民館運営に携わる、御協力いただいている地域住民の皆様、関係団体の皆様

謝を申し上げるとともに、今回の表彰を契機に、引き続き多くの方が集い、生涯学習社会の実現を図る学びやとして公民館運営に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、お配りした資料は、1ページから4ページは文部科学省の報道発表のものであります。5ページ、6ページにつきましては、表彰を受ける際に文部科学省に提出した資料でございますので、お目通し願います。

以上で報告を終わります。

○教育長（**宍戸健悦君**） ありがとうございます。

では、ほかにご覧いませんか。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（**林 伸晃君**） 委員の皆さんの席上に、金色の「みちのくGOLD浪漫」というクリアファイルを差し上げておりますが、このたび、石巻市の追加になった部分のチラシが出来上がってまいりましたので、そちらも併せて目を通していただきたいと思っております。

もう一点が、来年、2月7日ですけれども、林家たい平師匠の名誉館長就任式というのを執り行うこととしてございます。御案内につきましては、後ほど委員の皆様にも相談をさせていただきたいと考えておりましたので、詳細が決まりましたら、案内を送付させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○教育長（**宍戸健悦君**）

そのほか、ございますか。

学校教育課長。

○学校教育課長（**福田光一君**） 委員の皆様席上に、保護者の皆様へという、石巻市学力向上プランというのを配布させていただきました。親子の写真がのっているものです。

先ほどからお話があった、家庭の協力がなければ学力の向上はあり得ないということで、御家庭では基本的な生活習慣の確立をお願いしますという啓発のチラシをつくりました。どのようにして生活習慣を確立するのか、声かけの工夫で子供たちのやる気をアップしてくださいというような内容です。

裏面を御覧ください。学力向上プランのダイジェスト版として、保護者向けの内容です。

現在は、これまでの学力のイメージが変わっていますよというところ、ペーパーテストの点数だけが学力ではないというところを理解していただいて、そのために必要なことは、まずは子供たちのやる気を出させること。そして、学校は授業を、これまで一方的に教えていた授業

から、子供たちが考えるような授業に変えること。そして、家庭では基本的な生活習慣を確立してもらおうということで、基本的な生活習慣を確立して、どういう子供の姿がいいのかなというので、具体的に、3つほど理想の姿として挙げております。

学習した知識を活用するような声かけ。今まで「勉強しなさい」とか「本読みなさい」って言っていたことを、例えば「今日学校で習ったことをお母さんにも教えて」とか、「この間、読んだ本の内容を説明して」というような声かけの仕方であらってくるのではないかとこのころ。

それから、自分に必要な課題、取組。今まで一斉に宿題を出していたのですけれども、もうできるものはクリアしたと考えて、できないことをできるようになるための努力をするような声かけ。例えばタブレットドリルも、「やったの」だけではなくて「一緒にやってみる」とか、そういう声かけが必要かなと思っています。

最後に、先ほど梶谷委員からもありましたが、自分で時間を調整できる力、自己調整力。例えば毎朝起こされて起きるから、自分で起きるところからスタートするとか、あと、日々の計画的な過ごし方を子供たち自身に考えさせるとか、周りの大人の声かけで、子供たちの主体性、やる気が育っていきますよというところを、小学校、中学校の全家庭にこのチラシを配布したところでは。

教員の意識も変えなければいけないし、それに家庭の意識も変えて、子供たちが本当に楽しんで学べるような環境をつくっていききたいなと思っています。

以上です。

○教育長（**宍戸健悦君**） ありがとうございます。

梶谷委員。

○委員（**梶谷美智子君**） 今、学校教育課長からのお話を聞いていて申しますけれども、これから求められる学力のイメージというのが、このパンフレットに記載されています。

保護者の方に、目を通していただいて、理解していただける方もいるかと思うのですが、実際にはどのような授業が、これから求められる学力のイメージに合った授業なのかというところを、実際に授業を見ていただかないと分からないと思うのです。

このコロナの問題が出てきてから、今は、これまでのようになってきているのではないかなとは思いますが、授業参観の近さなども大分変わってきて、そういった授業を見ていただくという機会の、学校の方でどのように確保しているのかなというのが、心配な面でもあります。なかなかコロナ禍、大変なところもあるかと思うのですが、積極的に、これから

の学力はこうですよ、授業は、こんな様子なのですよというのを、実際に理解していただける取組の仕方というのを、各学校で工夫していただくということは必要なのかなと思います。

○教育長（宍戸健悦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（福田光一君） ありがとうございます。

授業参観の方は、大分、今年度復活してまいりまして、いろんな学校でやり始めています。あと、分散型で1年生、2年生、時間をずらしてやったりとか、フリー参観の形でやっているのですけれども、先ほども話したとおり、学校によって、授業改善の進み具合が、全部一斉に同じように進んでいないというのが事実で、すごく上手にやる先生と、旧態依然の教え込みの授業のままというところもあり、その格差をこれから改善して行って、2期目のところに「石巻スタイルの確立」という目標に付けているのですけれども、石巻の学校の授業法は、とにかく先生が話す時間が短くて、子供たちがたくさん話合いをするような授業が石巻のスタイルなのだよと、ここ3年ぐらいで確立したいなと思っています。先生が一方向的に教える授業から、徐々に子供たちが主役となるような授業に持っていきたいなと思っています。

そのためには、やはり家庭のお母さん、お父さん方にも、自分が受けた授業とは違うというのを知ってもらうのが一番なのかなと思いますので、授業参観の機会も多く取り入れていきたいと思っています。

○委員（梶谷美智子君） あわせて、やはり指導する教師が、特にこの新しい、石巻市が求めている学力を付けるような授業をやる、やるだけの資質、能力をどうやって高めていくかというところが、やはり大切だと思いますけれども、なかなか1人でいろいろ勉強したりするという、自己研修はしていかなければならないのですけれども、自分の若い頃のことを考えると、やはり共同で授業について考えるというか、そこでいろんなことを学べるのです。

だから、各学校でいろいろ工夫していらっしゃるとは思うのですけれども、何か一緒にこの授業をつくっていくというような、そういう時間の確保もなかなか難しいかと思うのですけれども、そういったことをやって行って、そこで「違うよ」って、「それは違うのだよ」と指導されるのも、それもやはり自分の力になっていくと思うのです。いいもの見るのもそうなのですが、自分がやっていることについて、「いや、これはもっとこうの方がいいよ」とか、ここが課題だなということを教師自身が自己課題というか、そういったものが分からないと、授業も改善していかないとと思うので、そういった時間を取れたらいいのかなと思います。

それが、現場で頑張らなくてはいけないことだとは思っています。

○教育長（宍戸健悦君） その辺は、これからもどんどん教育委員会の方から発信して、先生

方に勉強してもらおうという機会を多く取っていきたいと思います。

では、ほか課長方、何かありますか。

(発言する者なし)

○教育長（宍戸健悦君） よろしいですか。

委員方、よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長（宍戸健悦君） ありがとうございます。

では、そのほか、ないようでしたら、次回の定例会の日程について、お願いします。

○事務局（戸田正樹君） 次回、新年1月の定例会につきましては、1月27日金曜日、午後1時半から開催する予定です。

場所につきましては、市役所4階、庁議室で開催いたします。

よろしく願いいたします。

○教育長（宍戸健悦君） では、1月27日、1時半というところ、よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（宍戸健悦君） では、以上をもちまして、本日の定例会を終了いたします。

ありがとうございました。

午後 2時35分閉会

教育長 宍戸健悦
署名委員 杉山昌行